

上田市公共交通活性化協議会 会議録

日 時 令和3年2月10日（水曜日） 13:45～15:30

会 場 上田市勤労者福祉センター 3階 大会議室

出席者 別紙委員名簿のとおり（26人／34人）

会議概要作成年月日 令和3年2月15日

1 開 会

○上田市交通政策課 竹内課長

2 会長あいさつ

○上田市都市建設部 藤澤部長

- ・今年度は6月、10月、1月といずれも書面協議で開催した。
- ・本日は、コロナ禍ではあるが、報告事項や協議事項が多岐にわたり、また、バス路線の廃止等重要な案件もあることから、会議開催とした。
- ・本日の協議内容にもあるが、先に2点ほど触れさせていただく。
 - ① 別所線の復旧について
 - ・国、県などの関係機関や交通事業者、市民・利用者の皆様のご支援ご協力を得て、また、工事も順調に進んでいることから、3/28に全線開通を迎えることができる。
 - ・令和元年の台風災害に加え、昨今のコロナ禍の影響で利用者は激減しているが、全線開通した後は、行政機関や運行事業者、利用者等と連携し輸送人員の回復を図り、真の復興に向け、着実に取り組んでいく。
 - ② コロナ禍における交通事業者の経営状況と経済対策事業について
 - ・コロナ禍においては、未だに収束の見通しが立たない中、あらゆる分野の事業者や市民生活が困難な状況が続いている。
 - ・交通事業者に対しては、国・県・市が補正予算を編成し最大限の支援を実施してきた。
 - ・1/28に国の第3次補正予算が成立。国・県と連携して事業者への支援や公共交通の確保維持に努めていかなければならないと考えている。
 - ・本日の最後の議題において、事業者、市民、行政のそれぞれの立場から意見交換させていただく予定でいる。

3 報告事項

(1) 上田市地域公共交通網形成計画の事業評価について

報告資料1

○事務局 上田市交通政策課 山田補佐

- ・報告資料1に基づき、読み進める形で概要説明。
- ・本計画は平成28年度に策定し令和2年度末で終了となることから、計画期間中の実績を報告する。なお、令和2年度においては事業期間中であるため、中間報告とする。
- ・報告資料1-②（計画の概要）、報告資料1-③（計画の目標に対する実績値）、報告資料1-④（目標達成のための事業・施策）、報告資料1-⑤（地域公共交通計画）については、それぞれ後程、ご覧いただきたい。

○北陸信越運輸局 佐々木課長（事業評価について）

- ・中間報告ではあるがこのような形でまとめていただき、感謝。
- ・令和2年度においては、全国的に新型コロナの影響を受けたのに加え、上田市においては別所線の不通と外的要因が大きく評価が難しかったのではないかと。

- ・令和2年度は最終年度ではあるが、例えば、令和元年度の数値を見て、そこからの傾向を見て最終的に評価をしていただきたい。また、評価が目的ではなく、新たな計画策定に向けての示唆を得ることが大事。
- ・コロナ禍ではあるが、令和元年度の数値等を参考にして新たな計画策定に向けて動いていただくことを期待する。
- ・国としても計画策定に対して後押しを行う。

○長野県企画振興部交通政策課 大平主事（事業評価について）

- ・東日本台風やコロナ禍の影響により、評価が難しい面もあるが、交通機関の利用者低迷や運行事業者の運転手不足等の課題も顕著になっている。
- ・今後の引き続きの、維持確保の課題に向き合う必要がある。
- ・網形成計画の事業実施結果を踏まえ、次の計画策定に向け、検討できれば良い。県としても計画を検討する場に積極的に参加し、全県的・広域的な交通ネットワークとの整合を図る観点から、支援したいと考えている。

(2) 別所線災害復旧の委員について

報告資料2

○事務局 上田市交通政策課 山田補佐

- ・**報告資料2**について、概略説明。
- ・国の補助要件として、鉄道施設を公有化し、上田市が事業主体。
- ・予算、国県関係の主な動き（視察）、上田市議会関係、補助金申請手続き等について報告。

○上田電鉄（株）國枝常務（工事の進捗について）

- ・復旧事業に際し、上田市はじめ国、県にはご支援いただき感謝。また、地域の方々の応援により、開業までこぎつけることができた。
- ・工事の進捗については概ね順調である。
- ・本日、一部のプレスで報道していただいたが、昨晚レールを搬入した。（橋梁はほぼ完成）今後、架線等設備工事を行い、3月半ばに国土交通省による検査を受け、試運転を実施した後、3/28に全線開通を迎えることとなる。
- ・今年度の輸送人員の見込みは、60万人前後であるが、支援していただいたからには、長きにわたり鉄道輸送サービスをし続ける覚悟でいる。

○上田女子短期大学 花岡教授（利用促進について）

- ・ボランティアガイドについて、説明。
- ・本取組は2016年からスタート（今年で5年目）して、月2〜3回、学生が電車に乗車し、上田市や沿線の歴史や観光ガイドを行っている。
- ・現在14名の学生が加入している。
- ・今年度はコロナ禍の状況により実施出来ていないが、学生たちが動画を撮影・編集し上田電鉄及び上田女短のホームページ上で公開している。
- ・地元バス会社のプロのガイドさんによる講習会を実施しスキルアップを図った。
- ・2020年に長野県の「おもてなし大賞・特別賞」を受賞した。
- ・来年度は、「別所線ガール」を編成し、活動の幅を広げ、電車内外問わずガイドを実施していく予定でいる。

(3) QRコード決済実証実験について

○事務局 上田市交通政策課 山田補佐

- ・報告資料3-①について、説明。
- ・9/10に6団体により、プロジェクトを設置。12月に他の交通事業者にも拡大。
- ・報告資料3-②について、説明。
- ・上田バス（菅平高原線）にて、令和2年10月1日から令和3年3月31日まで（6か月間）の実証実験中。
- ・上田電鉄別所線でも復旧後の5月頃からスタートしたい。

○上田バス 舟見専務（利用状況について）

- ・現在、菅平高原線で利用する大型バス10台に設置。
- ・アプリをダウンロードした方は約200人であり、今まで約1,000回程度の利用があった。
- ・主な利用者は県外の方。毎日利用される方は10名程度。
- ・アプリの周知について課題がある。お客さんがバスに乗車する際に周知できれば利用率があがるのではないかと。
- ・現在、和晃さんが定期券のシステムを開発中であり、システムが完成した後、紙の定期券を廃止して、本システムへ移行することを考えている。

○北陸信越運輸局 佐々木課長（施策について）

- ・キャッシュレス化の課題として2点ある。
 - ① 「機材が高価」→比較的導入しやすい形で実施していただいている。
 - ② 「支払時に人が滞留してしまう」→アプリをかざすだけで支払が完了し、支払い時においてもお客さんの流れがスムーズになり、画期的な取り組みである。
- ・多くの市民の皆様に使っていただけるようになるとよい。
- ・本プロジェクトが“MaaS推進プロジェクト”へステップアップしていくことを国土交通省として期待する。

○上田電鉄（株）國枝常務

- ・5月から実験に参加させていただく。
- ・事業者にとってキャッシュレス化は、オペレーション上優位に働くため、是非とも成功させたいが、利用者の方がどれだけ便利と感ずることができるかが一番の争点だと思っている。
- ・先ほど、佐々木課長からMaaSへ発展をとあつたが、地域に使いやすくなるように展開していくことについても是非一緒に考えていきたい。

(4) バス停留所安全性確保対策について

○事務局（上田市交通政策課 市川係長）

- ・報告資料4について、読み進める形で説明。

○北陸信越運輸局 佐々木課長

- ・対策の優先度については国で示させていただいている。
- ・上田市においては、熱心に取り組んでいただいているので感謝している。
- ・バス停を設置した際には問題視されていなかったことも、時間の経過とともに様々な要因があり、対策が必要だと思うが、最終的には事故のない世の中にするのが重要である。
- ・長野県においては、期限を令和3年3月末としているようだが、地域差があると思っている。今回記載されている進め方で実施していただけたら良い。

○千曲バス 山崎次長（事業者として）

- ・弊社については、佐久地域から上田地域と広範囲にわたっているため順繰りに確認している。
- ・簡易的にすぐに動かすことができるところは、すぐに対応する。
- ・待合所が併設していたり、横断歩道が近い、動かすところがない等のバス停については確認中であり、今後については、市町村や警察と協議して進める。

○上田警察署 交通課規制係 西沢氏（交通安全の観点から）

- ・本件については、関係機関の皆様と情報共有を図り、安全対策について一緒に検討していく。
- ・横断歩道については、移設という判断もできるが、費用や移設時期等、直ぐに対応できない。
- ・今後については、関係機関と連携を図り、安全対策を進めていく。

○上田建設事務所 倉田整備課長（道路管理者として）

- ・占用手続きやハード面での対策を行うことになる。
- ・ハード面については、直ぐに対応できないこともあるが、関係機関の皆様と連携して対応していく。

4 協議事項

※協議事項（１）、（２）、（３）については、一括協議とする。

（１）上田城下線の廃止について

資料 1

○上田バス 舟見専務

- ・令和元年10月12日の東日本台風（台風19号）の影響により別所線千曲川橋梁が落橋し、別所線の上田駅-城下駅間が不通となってしまったため、同区間をバスによる代行輸送を行うことを目的として新設され、令和2年4月1日から運行を開始した。
- ・令和3年3月28日に別所線が全線開通し、代行輸送の役目を終えるため、同年3月27日付けで路線を廃止とする。

（２）交通不便地域（上田城下地域周辺）の指定解除について

資料 2

○事務局 上田市交通政策課 峯村主任

- ・別所線の全線開通に伴い、交通不便地域として指定していた地域（上田市東部地区、南部地区、中央地区、北部地区、西部地区、城下地区の一部）の交通の不便性が解消されるため、国へ指定解除の申請を行う。

（３）生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持計画他） の変更について

資料 3

○事務局 上田市交通政策課 峯村主任

- ・令和2年6月5日付上田市公共交通活性化協議会（書面協議）において、承認いただいた令和3年度生活交通確保維持改善計画が、上田城下線の廃止に伴い、内容を変更したため、変更計画を再度国へ提出する。
- ・変更内容については、資料3-①、資料3-②、資料3-③の赤字部分を参照。

※協議事項（１）、（２）、（３）について、質疑応答（意見）無し

(4) まちなか循環バスの廃止について

資料 4

○事務局 上田市交通政策課 市川係長

- ・平成27年10月1日から、住民からの要望を踏まえ、生活交通としての移動手段を確保するとともに、大河ドラマ「真田丸」放送に伴う観光客増加による渋滞の緩和策及び観光客の周遊による市街地活性化に結びつけるため、中心市街地を循環する新たな路線として「まちなか循環バス」を運行してきたが、受託者である千曲バスの深刻な乗務員不足により、令和元年12月28日から令和2年3月31日まで運行を休止した。
- ・令和2年度の運行についても運行事業者が決定せず、令和3年3月31日まで運行休止期間を延長とした。
- ・バス事業者における乗務員不足の問題が継続しているとともに、大河ドラマ「真田丸」放送終了後のバスの利用状況や市街地における交通体系の効率化等を踏まえて、路線を廃止するもの。

○千曲バス 山崎次長（事業者として）

- ・開始当初から、担当してきたが、乗務員不足により今後の運行継続が出来ないため廃止とさせていただきます。御理解いただきたい。

※質疑応答（意見）無し

(5) 信州の鎌倉シャトルバスの運行休止期間の延長について

資料 5

○上田バス 舟見専務

- ・令和2年4月1日より千曲バスから引継いだ上田市街地循環バス（赤バス）の運行及び上田城下線（別所線代行バス）の運行を開始することに伴い、運転手の確保が困難となったため、令和3年3月31日まで運行を休止とした。
- ・当該路線沿線が「日本遺産」に認定されたことを受け、多くの日本遺産を通るルートに変更を考慮しており、ルートについて、現在上田市と協議中である。
- ・現行の路線は、塩田町駅で別所線と接続していたが、下之郷駅（生島足島神社最寄り駅）を起点とし、別所温泉まで行くルートを検討している。
- ・令和3年4月1日から新ルートでの運行は、作業的に間に合わず、また、地元の了解を得るための説明会も行っていく上で、4月1日からの運行開始を見合わせることにし、運行休止期間の延長を行うこととした。
- ・新規路線については、地元の了解を得た後、改めて協議会に諮るので、お認めいただきたい。

○事務局 上田市交通政策課 山田補佐（補足）

- ・お配りした日本遺産のチラシの裏面に認定された35件の文化財が記載されており、その中に別所線も含まれているのでご確認いただきたい。

※質疑応答（意見）無し。

(6) オレンジバス（東塩田コース）の路線変更について

資料 6

○事務局 上田市交通政策課 峯村主任

- ・資料について説明。

○上田バス 舟見専務（補足）

- ・上田市古安曾地区の県道82号線（別所丸子線）柳沢バイパスが開通し、現行の運行経路が廃止（通行止め）になったため、運行ルートを変更する。

※質疑応答（意見）無し

5 その他（事業者からの方向）

(1) 西丸子線ダイヤ改正について

○上田バス 舟見専務

- ・3/28の別所線全線開通に伴い、電車の時刻に合わせ、ダイヤを改正する。

※質疑応答（意見）無し

(2) 中仙道線ダイヤ改正（予定）について

○東信観光バス 篠原部長

- ・一昨年、丸子地区にワイナリーがオープンしたことに伴い、しなの鉄道の上田方面の電車に接続していたが、オープン以降、軽井沢方面からのお客さんからの問い合わせが多く、4/1を予定にダイヤ改正を検討している。（2～3分程度の時間調整）
- ・詳細については別途報告する。

※質疑応答（意見）無し

(3) バス停留所の名称変更について

○千曲バス 山崎次長

- ・オレンジバス（浦里・室賀コース）の「吉田公民館」バス停名を「吉田会館前」へ変更する。

※質疑応答（意見）無し

(4) 新型コロナ禍における取組状況等の情報交換

（事業者からの報告、国・県・市の取組状況の報告）

○事務局 上田市交通政策課 山田補佐

- ・その他議題（4）資料について、説明。

○北陸信越運輸局 佐々木課長（国の取組について）

- ・令和2年度第3次補正予算が1月末に成立した。
- ・令和3年度予算も含め、交通事業者に対する支援を用意している。
- ・具体的に、令和2年度補正予算でも用意した設備導入、実証運行の実施等に加え、観光と交通事業者が連携して取り組むものに対する支援（観光庁予算だが交通にも使える）を用意している。
- ・設備導入に関しては、全額補助できないため、県・市にもご協力いただきたい。
- ・観光業と連携した取り組みを提案いただきたい。

○長野県企画振興部交通政策課 大平主事（県の取組について）

- ・事業者が行う感染防止対策や安全運行に必要な修繕・検査に対する支援を行った。
- ・具体的に、バス・タクシー事業者が行った感染防止対策や広報について、利用の落ち込みが激しい高速乗合バスに対する利用促進や利便性向上のための支援、地方鉄道事業者が行う車両検査に対する支援などを行ってきた。
- ・昨年 11 月以降の感染拡大の影響でさらに経営が厳しい状況にあることから、県として指定地方公共機関に対する運行継続に係る支援（案）を 2 月補正予算に計上する予定である。
- ・令和 3 年度当初予算において、キャッシュレス化に対する支援や交通計画の策定を複数市町村で取り組む場合の支援を予定している。
- ・コロナ禍の厳しい状況ではあるが、交通事業者、市町村と連携して公共交通の維持確保に取り組んでいく。

○長野県バス協会 松井専務理事（事業者の感染防止対策の取組、経営状況について）

- ・配布した資料説明
- ・輸送実績について、過去 2 年間を比較し、令和 2 年 3 月に半減、5 月に底、6 月～10 月は若干持ち直したが、第 3 波の影響で今後 2 番底が来るのではという懸念がある。
- ・協会に加盟している大半が貸切バス専用事業者。乗合は持ち直してきているが収益につながらない。貸切、高速事業の利益で補填していた構図が崩れてしまった。
- ・上田市においては国・県と同様に今後も支援をお願いしたい。
- ・事業継続が存続の危機になっているところが多々ある。車両を売却する事態にもなりつつある。今後も各方面に中長期的に影響が出てくることが予想される。
- ・運転手不足は影を潜めているが、今後改めて、運転手不足が顕著になるくらい需要が回復すればありがたい。
- ・安全性の PR 等を行い、利用促進に努めていく。

○千曲バス 白鳥部長（事業者の感染防止対策の取組、経営状況について）

- ・松井専務のお話のとおり。
- ・厳しい経営状況が続いている。
- ・千曲バスとしての取組は、従業員の感染防止対策（手洗い、うがい、健康観察、マスク着用）を徹底している。
- ・バス車内においては、ウイルスや菌を不活性化させる光触媒によるコーティングを施し、また、運行終了時に通常の噴霧器を使い車内消毒、乗務員によるお客さんが触れやすい箇所のおふき取り清掃。運転席周りをビニールで仕切ることによる、飛沫防止策を行っている。
- ・出発前等の車内換気や掲示物で感染防止の啓発実施。
- ・高速バスについては、東京便を 1 便休止、大阪便は全便休止中。
- ・貸切、高速の収入は 9 割減で厳しい状況である。

○JR 上田駅 丸山駅長（事業者の感染防止対策の取組、経営状況について）

- ・バス同様、厳しい状況が続いている。
- ・JR 東日本全社において、前年に比べて 47%（△53%）、長野支社は 31%（△69%）、上田駅は 20%（△80%）の状況であり、特に上田地区は全支社的にも厳しい状況である。主な要因はツアーやインバウンドが無いことと企業の出張が控えられていることが考えられる。
- ・3/13 にダイヤ改正を予定している（大きな変更なし、上田駅停車本数も現行通り）

- ・新幹線については、コロナ禍の中、イメージ的に厳しいが、車内の空気を数分で入れ替えることが可能であり、また、駅構内での感染対策も徹底しているため安心してご利用いただきたい。また、3/28の別所線の全線開通やオリンピック・パラリンピックも控えていることから少しずつお客さんが動いてくることを期待している。

○長野県タクシー協会上小支部 中嶋支部長

(事業者の感染防止対策の取組、経営状況について)

- ・ 昨年は、上田市・国・県から過分なるご支援いただき感謝。
- ・ 感染対策はマニュアルに沿って徹底して対応している。
- ・ ドライバーが高齢化しており、ドライバー自身がコロナに感染しないよう、慎重に対応している。
- ・ 利用状況は、昨年2月頃から影響が出始め、概ね5割減。
- ・ 昨年5月（緊急事態宣言中）については7～8割減。
- ・ 現在は、毎日の稼働台数減、営業時間の短縮、雇用調整等を行い雇用調整助成金を用いて雇用を維持している。
- ・ 先が見えない中ではあるが、借入額も増加している。

※質疑応答（意見）無し

6 閉 会

○事務局 上田市交通政策課 竹内課長

- ・ 信州の鎌倉シャトルについては、今後内容が決定した段階で書面協議を実施する予定ですので、御協力いただきたい。
- ・ コロナ禍において、先が見通せない厳しい状況ではあるが、住民の皆様からコミュニティ交通（デマンド交通等）の話も出ていることから、市民の移動手段は、生活を支えるライフラインでもあるため、今後も維持確保に取り組んでいきたい。